

札幌商工会議所
業界動向調査結果（8月）

札幌市及び道内の主な経済概況

平成18年10月

札幌商工会議所 総合企画部

札幌商工会議所
業界動向調査

調 査 概 要

- 趣 旨 本制度は、市内主要企業にご依頼し、各業界の動向をお聞かせ頂き当所の諸事業に反映させる一方、会員・部会役員への情報提供の資料として活用致します。
- 札幌市を代表する13社（総括含む）から動向を聞き、結果を主要指標の動向と共に「札幌市及び道内の最近の経済概況」として取り纏め、公表するものです。
- 調査内容 ①今月の業界動向について
a.各部門の対前年同期比売上の推移 b.取扱量の推移 c.季節的要因
②先行きへの見通し及びその要因
a.各部門の対前年同期比売上の推移 b.取扱量の推移 c.季節的要因
③トピックス
a.社会・国際情勢による変動 b.新技術事情 c.業界再編の動向
- 調査方法 調査は隔月で実施

8 月 結 果

《 総 括 》

道内景気は、持ち家の着工や観光関連が堅調に推移しているものの、原油価格の高止まりに伴う原材料価格の上昇もあり、総じて横ばい圏内にある。

設備投資は、大手製造業の能力増強投資のほか、道内企業の投資マインドにも幾分改善がみられ前年を上回って推移している。住宅投資は、8月の新設住宅着工戸数が前年比14.2%減と2ヶ月ぶりの減少となった。利用関係別では、持ち家は10ヶ月連続して前年を上回ったが、分譲と貸家はそれぞれ2ヶ月ぶりに減少した。公共投資をみると、9月の公共工事請負金額は予算面の制約のあり、国、道および市町村からの発注がいずれも前年を下回り同13.6%減となった。個人消費は、8月の大型小売店売上高は既存店ベースで前年比0.7%減となったものの、全店ベースではスーパーの新規出店が寄与し同1.1%増となった。業態別にみると、百貨店は気温が高めに推移したことから日傘など身の回り品が堅調となったが、秋物衣料の売れ行きが不振となった。スーパーは、衣料品が低迷したものの主力の飲食料品は底堅く推移した。観光関連では、知床・旭山動物園の人氣が持続していることもあり、8月の来道客数は同4.7%増と5ヶ月連続で前年を上回った。

一方、8月の鉱工業生産指数は前年比2.4%増と6ヶ月連続して増加した。化学工業などで低下したものの、一般機械工業などで上昇した。9月の企業倒産は、件数では5.6%、負債総額では同26.9%それぞれ増加したが小口倒産が多く、基調としては落ち着いた状況にある。雇用情勢をみると、8月の有効求人倍率（常用）は、新規求人数が卸・小売業などで減少したものの建設業や医療・福祉などで増加したため、前年より0.02ポイント改善し0.55倍となった。

《 8月の業界動向 》

住宅業界

今年の新設住宅着工戸数は、8月末現在、昨年比プラスで推移している。「持家」が若干のプラス、小・中規模マンションやアパート、いわゆる「貸家」が約9%のプラス、分譲住宅が25%のマイナスで、トータル2.5%のプラスとなった。

建築確認申請数が順調との報道もあるが、実際の着工数との乖離がみられ、確認申請だけでは判断できない。当社としては景気回復の実感はあまりない。

先行きについては、最悪だった昨年よりはわずかに受注、売上とも回復している。釧路市ではエリア最大級（14階建：54戸）の「免震マンション」が着工し、来年度秋に竣工・販売する予定である。

降雪前・年内入居を目指し、各社年内最後の受注合戦を繰り広げられている。

トピックス事項としては、原油価格の高騰による資材や運送価格の上昇が挙げられ、内部吸収にも限界がある。またゼロ金利解除に伴うローン金利上昇局面による影響や消費税アップ議論、土地価格の底打ちと二極化などが問題視される。

その他、免震・制震・耐震、老舗倒産の増加、勝ち組・負け組みの格差拡大。都心部高層マンションの供給過剰感。本州不動産ファンドの進出（一棟買い）などが話題となっている。

貨物運送業界

8月は数量・売上とも、対前年同月及び対前月で伸びており、特積みはほぼ横ばいだが、区域の伸びが大きく貢献している。先行きについても、同様の状況が続く見通しである。

フェリー運賃の上昇が止まらず、厳しい状況が続いている。

機械関連業界

8月は、前年比8.2%減少、前月比で24.8%増加している。8月は大きな案件もあり、前月より伸びている。

鉄の粗鋼生産量は順調に伸びており、顧客の購買意欲は落ちていないように感じている。しかし、素材となるステンレス鋼・砲金の価格が上昇しており、まだまだ素材が安定していない。

溶接棒やガスの値上げ等が続きますが、製品価格への転嫁が難しく不安定な要素がある。

事務機・OA関連

8月は対前年売上99%、前月比118%となった。8月単月では民間の情報系ネットワーク（グループウェア）の買い替え需要があり、サーバー・PCの販売は順調であったが、公共系では動きが鈍かった。

複写機・プリンタ関連もカラー機の販売は順調で、それに伴うプリンタサプライも順調に伸びている。

その他では防犯カメラの新規・買い替えも目立った。

10～12月の見通しは、札幌地区、その他道内とも前年同期比100%の見込である。札幌地区ではOA関連の設備投資では、情報系ネットワーク構築から一巡しサーバー・PCの更新需要が民間・公共もそこそこに推移しそうだが、道内全体では、公共・民間ともに引き続き需要低迷の状況に変わりなく、前年同期を上回ることはないと思われる。

最近の情報関連市場の動きの中では、情報セキュリティ被害の防止や情報漏えい対策としてセキュリティソフトウェアやセキュリティサービスに対する投資が活発になっており、その需要は大企業から裾野の大きい中小企業へと変化してきている。

また、複写機・プリンタ関連ではカラー化が進んでいることと同時に、複写機はコピー機能優先から複合機（プリンタ機能やスキャナー機能が付加）にシフトし、ネットワークプリンタとしての需要がさらに高まってきている。

総合スーパー業界

8月は月間を通して好天、高温で（お盆過ぎは気温低下があったが）、飲料水、アイス、ビール、冷麺、玉子豆腐などの涼味商材が好調で、既存店の売上状況もほぼ前年実績を上回る進行であった。

お盆商戦は、札幌や旭川、帯広などの中核都市で売上は減少傾向にあったものの、地方都市や郡部の店舗で売上が伸長し、帰省関連の消費が好調であった。おもてなしメニューの寿司や刺身、オードブルなどの盛り合わせが好調に推移した他、夕張メロンやメロンゼリー、乾麺、コーヒーなどのお中元ギフトの売上状況も良かった。

米類の販売では、道産米が品薄、価格高騰から売上が激減、相対的に割安感が強まった府県産米やブレンド米、健康志向の玄米、簡便商品の無洗米は好調であった。9月以降も府県産米の新米を中心に、この傾向が続くものと思われるが、10月以降は豊作となった道産米の新米が出回ってくるので、価格の落ち着きとともに道産米の需要も回復してくるものと思われる。

トピックス的な事項としては、大手総合スーパーの再建問題や、一方で地方の中堅、中小スーパーの経営破たんが続くなど、業界再編の動きが再び加速していくような流れを感じる。

飲食業

8月は対前年比 91.3%、依然としてオーバーストア、過当競争状態が続いている。暑い日が続いた割には売上増には結びつかなかった。

業界的には、飲酒運転の取り締まり強化により、今後は、駐車場のある郊外店は、厳しい営業を覚悟しなければならないと予想される。また、飲酒運転防止パンフレットも、本社にて作成しており、加盟店も含め、全店に配布する予定である。

旅行業

8月の総取扱額については、前年同期比 105.4%と前年を上回った。国内、外国人旅行（受け入れ）と比較して、海外旅行の伸びが目立った。これは比較的安定してきた国際情勢や前年に比べて大幅に伸びている中国・アジア方面への渡航増の影響、さらには夏休みのファミリー層等の海外旅行が順調であったことによるものである。内訳を見ると、国内旅行は前年同期比 101.8%、海外旅行は同 110.0%、外国人旅行は同 106.9%であった。

景気の回復傾向は続いており、海外旅行を中心に今秋の旅行動向も比較的堅調と見られるが、地域、旅行方面により格差が見られ、一概には言えない面がある。全体的には国内旅行は微増、海外旅行は5~10%程度の伸びを見込んでいるが、北海道内については、札幌圏以外の伸びはあまり期待できず、全道でほぼ昨年並みと見込んでいる。

トピックス事項としては、原油の高等が続いているため、国際航空運賃とは別枠の燃油サーチャージが10月以降、さらに値上げとなったこと（但し、これによる海外旅行渡航社数への影響は少ないと見られる）や、他社では7月以降、個人向け店頭カウンター営業を徐々に縮小し、法人・団体営業へのシフト化を進める動きが見られる。

ホテル業界

8月は「世界バスケットボール大会」など大型イベントが札幌で開催され、期間中など市内の各ホテルは高稼働を上げ、お盆期間も市内・道外のファミリー客などの動きも良く、商工会議所100周年の「こども未来博」や好天に恵まれた「大通ビアガーデン」なども7月に引き続き、入り込みが良かった。

9月以降も学会・大会が多く市内で開催され、市内各ホテルとも高稼働をKEEPしている模様。駒大苫小牧野球部の甲子園準優勝をはじめ、北海道日本ハムのパリーグ1位通過など、スポーツの分野で北海道が脚光を浴びており、観光客の更なる増加に期待したい。

旭川動物園の入場者数は3カ月連続で全国1位になったように、人気に衰えはない。知床世界遺産とともに北海道景気を牽引している形になっている。

エネルギー業界

平成18年8月分の販売電力量は、電灯・電力が前年より検針期間が短かったことなどから前年実績を下回ったものの、特定規模需要が「鉄鋼業」の需要増などにより高い伸びとなったことから、25億2千7百万kWh、対前年伸び率は2.9%と高めの伸びとなった。

電灯は、時間帯別電灯（対前年伸び率8.7%）がオール電化住宅戸数の好調な推移により高い伸びとなったものの、前年より7月下旬の気温が低かったこと、および検針期間が短かったことなどから、対前年伸び率はマイナス0.2%と前年実績を下回った。

電力は、低圧電力（対前年伸び率マイナス2.4%）が契約電力の減少により前年実績を下回ったことに加え、前年より検針期間が短かったことなどから、対前年伸び率はマイナス2.3%と前年実績を下回った。

特定規模需要では、「鉄鋼業」の需要増などに加え、業務用需要（対前年伸び率4.7%）や産業用需要（対前年伸び率5.6%）の燃料価格高騰による自家発から売電への切替などから、対前年伸び率は5.2%と高い伸びとなった。

大口電力は、「化学工業」（対前年伸び率マイナス10.3%）が前年実績を下回ったものの、その他主要業種において高い伸びを示したことなどから、対前年伸び率は10.1%と9カ月連続で前年実績を上回った。

定山溪

前月同月との比較は取扱量、売上ともに3%程度の落込み。7月との比較では10%落ち込んだが、主に市内及び市内近郊のお客様の足が遠のいているように思う。特に7月後半からの猛暑が影響しているように感じた。

9月後半からの海外のお客様の予約が例年より10%程度増加。特に11月、12月は今までに例のない予約が入っていて、取扱量は例年よりプラスになる見込み。ただ、海外のお客様が多いときは、館内消費が振るわないのが気になる場所である。10月に関しては、例年通りピーク時ということもあり、今のところ好調な出足である。

シンガポール、マレーシア、タイなどの新規の予約が増加しているが、最近のタイのクーデターがどのような結果になるか気になる場所。ただ、ぼちぼち中国本土からの予約も入ってくるようになり、大いに期待している場所です。

札幌商工会議所
札幌商業界動向調査結果（8月）

平成18年10月 日 発行

【お問い合わせ・照会先】

札幌商工会議所 総合企画部
札幌市中央区北1条西2丁目 北海道経済センター
TEL：011-231-1330 FAX：011-222-5215
Mail：kikaku@sapporo-cci.or.jp